

はじめに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 保寿 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010213

はじめに

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻（教職大学院）の第7期修了生による成果報告書抄録集をお届けします。

本抄録集は、静岡県教育委員会派遣の教員17名（研修等定数による派遣15名、研修支援制度による派遣2名）および学卒大学院生5名の合計22名の修了生が、2年間にわたり探求してきた実践的研究の取組の経過および成果の概要をまとめたものです。この抄録集をご覧いただき、教職大学院修了生各自がこの2年間何をどのように学び、どのような課題に取り組み、どのように実践的指導力を身に付けようとしたのか、それぞれの学修プロセスをご理解いただければ幸いです。修了生による実践的研究の成果は、今後における学校教育現場の課題解決や組織マネジメント、授業や生徒指導等の教育活動の一層の充実と改善につながることを期待されます。

折しも、次期学習指導要領の改訂に関する中央教育審議会答申が発表されたところですが、本抄録集に掲載されている実践的研究の成果には、次期学習指導要領が目指す教育の方向と課題に応える内容が多く見られます。英語短時間学習のモデル化、授業研究とカリキュラム・マネジメントの推進、全ての生徒を生かす道徳教育の方法等をはじめ、放課後子ども教室の体制整備、特別支援教育コーディネーターの役割など、現在、教育委員会や学校で求められている課題に応え得る内容となっています。

なお、本抄録集の刊行と同時に、3月4日（土）には本専攻の主催による公開成果報告会を開催しています。公開成果報告会には、毎年、静岡県教育委員会、政令市教育委員会、静岡・静岡西教育事務所をはじめ、現職院生の在籍校、実習の連携協力校から多数の関係者のご参加をいただいています。また、教職大学院の実践的研究成果に関心をもつ大学研究者・院生等のご参加を得ています。ご参加いただいた皆様には、心から御礼申し上げます。

今後も、修了生が新しい学校づくりを進める新人教員として、あるいは、スクールリーダーに相応しい力量を備えた中核的中堅教員として、それぞれの立場で教職大学院における2年間の学修成果を学校や地域に積極的に還元し、学校や教育委員会等でさらなる飛躍を遂げることを期待しています。本専攻修了後の着任校あるいは採用校における修了生の教育実践の質的向上に関しても、送り出した我々教職大学院スタッフ一同が引き続きサポートしようと考えているところです。

これを機に、本教職大学院が静岡大学教育学部・大学院教育学研究科と学校教育現場や教育委員会との間に、一層緊密な協働関係を構築するハブ機能としての役割を果たしていくことを願っております。

2017年3月1日

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻
（教職大学院）
専攻長 山崎保寿